

# 寄附金の獲得の推進について

平成30年7月12日

国立研究開発法人理化学研究所

外部資金室 寄附金担当

## 1. 理研における寄附金の概念及び業務の実施体制

### ☆寄附金とは、

- ・理研の今までの活動への信頼に基づく、将来への期待
- ・社会からの評価への対価として受け取る支援金

### ☆なぜ寄附金を募るのか

- ・社会の要請に応えた理研のミッションに共感する支持者の獲得
- ・ミッション実現に向けた収入の多様化

### ★寄附金業務の実施体制

管理職2名(他の業務も所掌、兼務 各1名)、

専従者2名(常勤、非常勤 各1名)、

ファンドレイザー1名(百周年事業より移籍、非常勤:週2日勤務)

## 2. 寄附金獲得のメリット

### 《理研側》

#### ○研究現場のメリット

- ・特定寄附金であれば、競争的資金等外部資金同様、『研究費が純増』

- ・競争的資金等外部資金に求められる「成果報告書」や「決算報告書」作成の必要なし

  - ⇒研究活動への負担軽減に貢献(ただし、HP上での御礼文掲載は要)

- ・社会的ニーズにマッチした研究テーマ確認のバロメータ

  - ⇒社会的注目度が高い研究テーマの「新たな募集特定寄附金公募」への道すじ

#### ○事務部門のメリット

- ・管理費として、共通事務経費に充当可(特定寄附金の10%)

**\*「特定寄附金」は、研究現場、管理側ともにWIN-WINの状況を創出**

### 3. 寄附者側のメリット

## ○寄附者への特典

- ・ 寄附者名の理研ホームページへの掲載（ご希望者のみ）

- ・ 寄附者の会「理研を育む会」への入会  
（会費無料、入退会自由。

\*理研ニュース（冊子・メルマガ）の送付

\*科学講演会の案内

\*一定金額以上の寄附者に記念プレートを贈呈)

- ・ 税法上の優遇措置  
（法人税、所得税、住民税の控除対象）

理研は、法人税法及び所得税法上の「特定公益増進法人」に該当

- ・ 紺綬褒章の上申

《記念プレート》



功勞会員用／ブロンズ  
（輪島塗）

## 4-1 寄附金関連 ①寄附金の全体像

### ○寄附金の種類

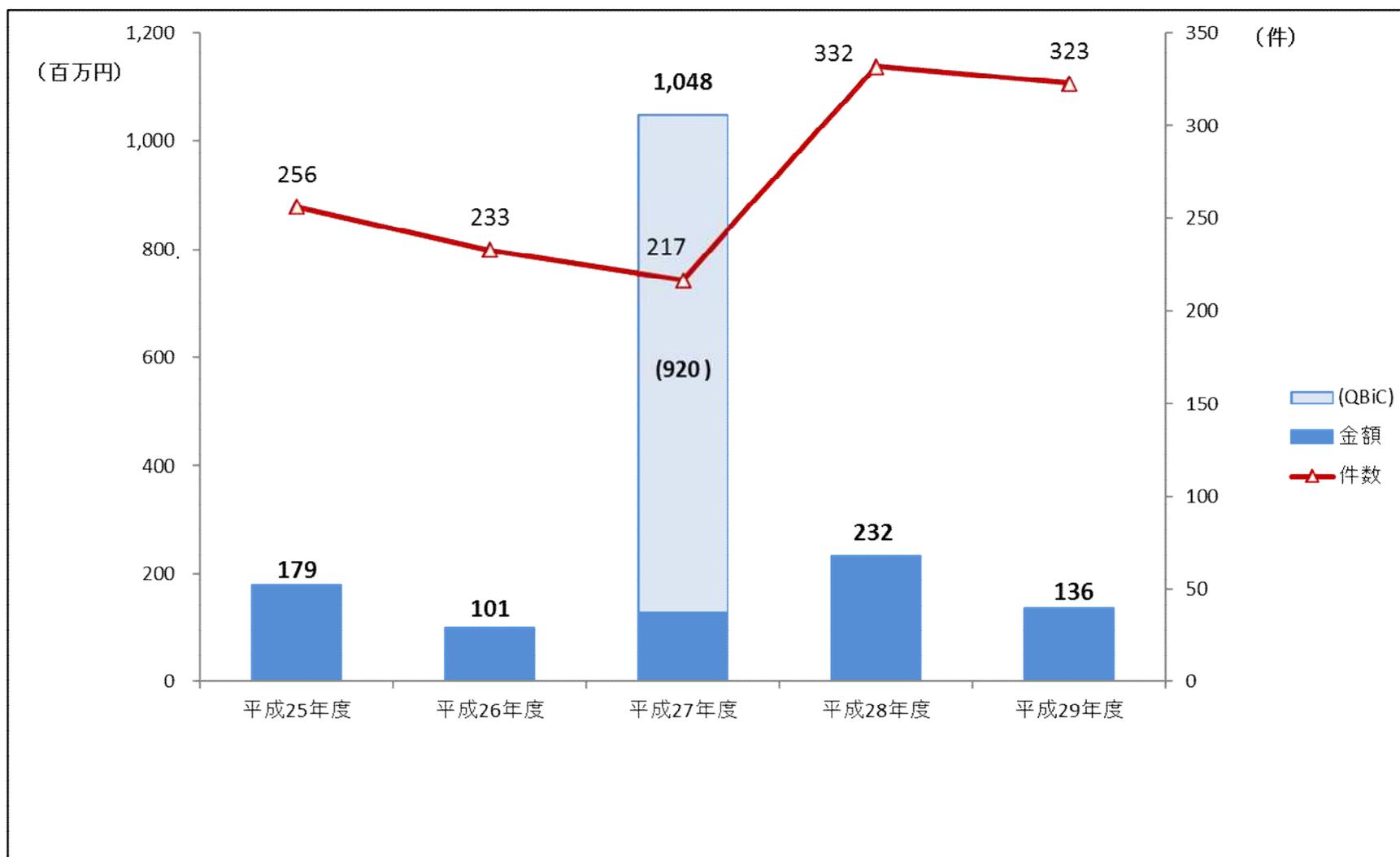
寄附金の種類		用途 特定者	一般 管理費	使用期間	H28年度実績	H29年度実績
特定 寄附金	募集特定 寄附金	・ <u>理研が、募集期間等の募集計画を作成し、あらかじめ用途を特定するもの。</u>	10% 受入	使用期間は原則 3年	133,603 千円 262件	64,172 千円 254件
	用途特定 寄附金	・ <u>寄附者が、寄附の申し込みにあたり、あらかじめ用途を特定するもの。</u>			96,484 千円 58件	71,032 千円 60件
一般寄附金		・ <u>寄附者が用途を特定せずに寄附し、理研が受入基準に従って用途を特定するもの。</u>	—	H29年度までは、 受入れ 年度中 に使用	1,420 千円 12件	1,001 千円 9件

H28年度計 332件 231,507千円、H29年度計 323件 136,205千円

『平成29年度において募集した寄附金』

- ①視覚機能再生研究支援寄附金<平成30年度以降も募集継続>
- ②「臨床応用を目指した、こころの病(統合失調症、自閉症、気分障害)の原因解明と治療法開発」支援寄附金
- ③理研創立百周年記念事業募集寄附金(参考—累計604件 227,597千円、その他、物品寄附7件(予定含)あり)

## 4-2 寄附金関連 ②寄附金獲得実績推移



### ○特記事項

- ・H27年9月に解散公益財団法人の残余財産(920百万円)を「QBIC(生命システム研究センター)活動支援」のための用途特定寄附金として受入れ
- ・創立百周年記念事業寄附金<<H27度より、募集特定寄附金としての公募開始>>

## 5. 寄附金の獲得に向けた取組み①

### ○寄附金受入拡大のため、寄附しやすい環境整備の更なる充実化

- ・企業1,000社あて寄附金の依頼文書を送付  
(寄附実績企業、理研と未来を創る会会員等)
- ・WEBシステムによる寄附金申込対応  
(H22年度～ 一部、クレジットカード対応も実施)
- ・親しみやすいイラストタッチの宣伝リーフレットの作成及び一般公開等各イベントでの積極的配布
- ・社会的注目度やニーズの高いと思われる研究課題を
  - ①募集特定寄附金として公募 (H25年度～)
  - ②用途特定寄附金受け入れ具体例としてHPに掲載 (H29年度～)
- ・寄附者の会(理研を育む会:前掲)の創設 (H22年度～)  
30.3.31現在-法人・団体616、個人393<計1,009>

## 5-2. 寄附金の獲得に向けた取組み②

○**新しい寄附金募集形態への対応**《個人からの寄附拡充としてH27年度より対応》

・寄附文化の醸成、イメージアップの向上方策の一環として、NPO法人「日本ファンドレイジング協会」が実施する寄附月間イベント

「GivingDecember」に今年も参加予定。理研ロゴ掲載中。

### ○創立百周年記念事業寄附金の公募

(H27～29年度。目標額3か年で10億円。

獲得額約2.2億円＜研究機器寄附を含めると約3億円＞)

\*一定額以上の寄附者への銘板氏名掲載等特典を用意

\*その他、新たな試みとして、ファンドレイザーの採用、

イベントでの募金箱設置、振込手数料免除の専用振込用紙

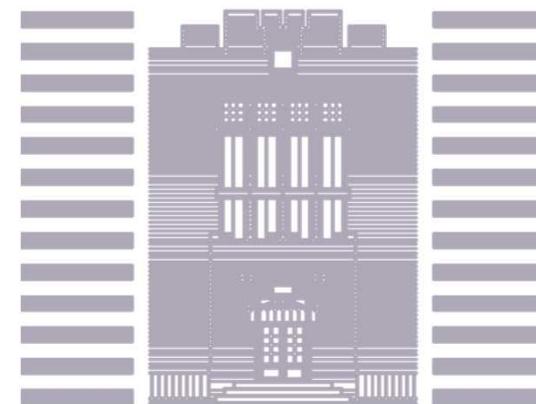
の作成・配布)》

⇒事業の概要等は次ページへ

# 理研創立百周年記念事業の取り組み

・創立百周年を迎え、これまでのご支援に感謝するとともに、次なる百年においても、我が国の科学技術の向上を図り、産業界等との連携を強化し、社会から信頼されるかけがえのない研究所であり続けるため、理研と社会の関わりを更に広げる活動として、創立百周年記念事業を行います。

1. 連携研究室等の設置
2. 若手研究人材の育成
3. 国際水準の研究環境の整備
4. 記念式典・講演会・百年展の開催
5. 記念史料の収集・保存・展示
6. 未来を共につくる研究の推進
7. 「科学道100冊」の贈呈—未来の科学者たちの育成支援



これら各事業のうち、全てもしくは一部を当該寄附金により実施

# 1. 連携研究室等の設置

大学、企業及び理研の研究者が、連携してイノベーション創出に資する研究開発活動を展開する連携研究室、連携センター等を設置。

## ○連携研究室(科学技術ハブ)の設置支援

→理研BRC-京大CiRA連携拠点(けいはんな地区iPS創薬基盤開発連携拠点)整備を支援し、2018年4月より運営を開始しました。

研究機器等の現物寄附(2社から2件)を頂戴し、設置しました。



連携拠点開所式(2018年4月9日)



連携拠点研究室の整備



中央実験台



高速液体クロマトグラフ質量分析計

## 2. 若手研究人材の育成

次なる百年を見据え、将来の世界的研究リーダーを育成するため、理研内外の若手研究人材のキャリアアップを支援。

### ○国際的な人材交流の促進

→国際シンポジウム8件の開催費用を助成しました。



BSI20周年記念シンポジウム  
(2016.12.10)



理研CLST-カロリンスカ研-SsiLifeLab  
合同シンポジウム(2016.9.29)



### ○所内40歳未満の若手研究者・技術者の顕彰

→本事業への寄附金により、研究・技術・産業連携奨励賞  
受賞者へ副賞(金5万円)を贈呈することとし、  
2018年3月15日、第1回副賞贈呈式  
及び交流会を開催しました。  
(今後、10年間程度継続活用の予定)



### 3. 国際水準の研究環境の整備

大学、産業界等が連携・交流するための場、若手研究者が独立して研究ができる場など、国際水準の研究環境を整備。

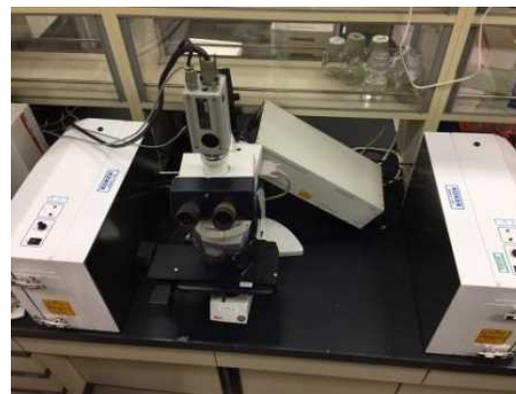
#### ○先端研究機器等の整備・充実

- 研究機器の現物寄附申出(5社から6件:前出分含む)を頂き、希望研究室に設置いたしました。
- さらに、平成30年度において、研究機器の現物寄附(1社から1件)が予定されています。

#### 《寄附物品の一例》



高性能電気炉



テーブルコーチ(両脇)

## 6. 未来を共につくる研究の推進

次なる百年を展望し次世代のための投資となるよう、未知に挑み、真理を探り、新たな未来を共につくる研究・活動を推進。

### ○新しい元素を世界で初めてつくる研究 (「ニホニウム」に続く、119番、120番 元素の合成に挑戦)

→**用途特定のご寄附(2件)を頂き、研究室に予算配賦しました。**

気体充填型反跳分離器  
(GARIS)



線形加速器  
(RILAC)



### ○未来を切り開く研究の推進→詳細は後出

→**未来を切り開く独創的な研究課題を動画等により若手研究者等が自ら紹介し、新たに理解者・賛同者(寄附者:サポーター)を得る(クラウドファンディング)とともに、研究の進捗状況を定期的に説明する場(サポーターの集い)を設けることを準備中。**



## 7. 「科学道100冊」の贈呈 —未来の科学者たちの育成支援

未来の科学者たちの育成に資するため、先進的な理数系教育による創造性豊かな人材育成に取り組んでいるスーパーサイエンスハイスクール(S SH)に「科学道100冊」セットを贈呈。

→SSH指定高校に希望調査を行い、195校に発送・贈呈しました。  
また、本件について、2018年7月2日、栃木県知事から当研究所に感謝状が贈呈されました。



OBによる出前授業の実施

SSH指定高校における贈呈図書の開

# 創立百周年記念事業寄附金の募集

- ・募集額 : 10億円
- ・募集期間 : 2015(平成27)年度から2017(平成29)年度

## 【当該寄附金のみの寄附者特典】

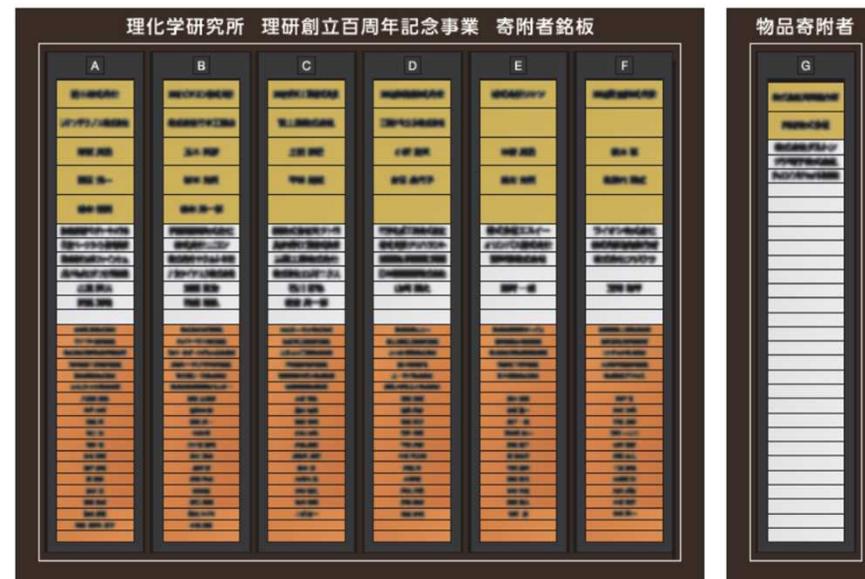
### ○ご芳名銘板の掲示

当該事業へのご寄附者(累積一定額以上)の方々を永きに亘り顕彰させていただきます。  
物品寄附者についても金額相当額を同様の基準にて対応させていただきます。

→設置済、展示中

(@和光事業所・電気機械棟東側壁面)

(銘板種類)	(個人)	(法人・団体)
ゴールド	100万円以上	500万円以上
シルバー	50万円以上	100万円以上
ブロンズ	10万円以上	50万円以上



掲出中の寄附者銘板

### ○ご芳名録の作成

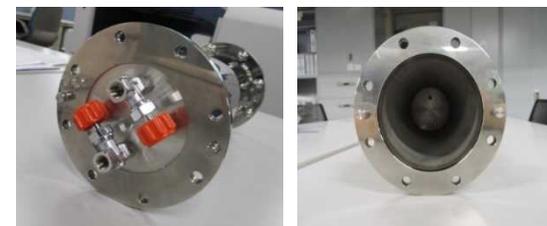
当該事業へのご寄附者を掲載(ご希望者のみ)したご芳名録を作成→準備中、理研HPにて公開

## ○百年タイムカプセルの設置・展示

先人達が営々と築いてきた百年の歩みや現在の活動状況を百年タイムカプセルとして、後世に伝えます。

→設置済、展示中(@和光事業所・電気機械棟西側壁面)

百年タイムカプセル



除幕式(2018年3月23日)

## 5-3. 寄附金の獲得に向けた取組み③ HPへの謝辞等掲載

### ◎実績・使途・謝辞掲載

**募集特定寄附金（2016(平成28)年度）** 262件， 約134百万円

#### 二ホニウム命名記念祝賀会支援寄附金

二ホニウムという名称には、日本国民からの長きにわたる支援と期待に対する深い感謝の意が込められています。重要な知の金字塔として元素周期表の一席を占めることとなったこの歴史的成果を広く深く皆様と分かち合うために、二ホニウム命名記念祝賀会を開催いたしました。理研は、更なる日本の科学技術力の発展に向けて、119番・120番元素の合成・発見に挑戦してまいります。皆様からのご支援に深く感謝いたします。



**一般寄附金（2016(平成28)年度）** 12件， 約1百万円

主な使いみち

#### 「第38回理化学研究所科学講演会（於：東京）」および「理化学研究所科学講演会in秋田、in長崎、in高知」開催

理研の研究活動をご紹介する機会として毎年開催しております「科学講演会」を、例年開催している東京に加え、秋田、長崎、高知の3都市でも開催いたしました。

東京では、アジアで初めて元素命名権を得た113番元素に係る研究を中心に講演を行いました。秋田、長崎、高知では、日本で唯一の自然科学の総合研究所という理研の特徴を生かした、幅広い研究分野における最新の成果をできる限り分かりやすく紹介しました。

ご来場されたみなさまに、理研の研究成果・研究の意義をアピールすることができました。ご支援に深く感謝申し上げます。



科学講演会（東京）



科学講演会（高知）

## 6. 寄附金の獲得及び寄附金業務活性化に向けた今後の課題等

### ☆ 周年事業後の寄附金獲得キャッチフレーズの提示

⇒特に民間企業における資金提供時の透明化が顕著となっており、企業側が寄附しやすいテーマ建てがファンドレイジング活動面からも必要

### ☆ 寄附母体としてのOB会や企業との連携機能の活用

⇒大学OBには「母校への恩返し」的概念や卒業生を介した在籍企業とのつながりが存在し、寄附の獲得に貢献

⇒創立百周年記念事業寄附金獲得の中心となった理研OB会や「理研と未来を創る会」、寄附金実績企業等産業界との連携組織群があり、（前項にも関連し）これら群からの寄附金獲得につながる（囲い込める）PR方法の更なる検討が必要

### ☆ 研究現場の声を反映した寄附金の獲得

⇒法人対応として空白区である、今まさに必要な数十万円～百万円規模の研究活動費の機動的確保方策の展開、拡充が必要

⇒このため、少額でも、機動的に資金確保を実現する、新たな寄附金の仕組みづくりによる寄附者群の開拓も不可欠<新しいPR展開方策としての理研版クラウドファンディングシステムの創設へ> ⇒詳細は後述

### ☆ 大学機関との税制上の寄附者への優遇措置格差の是正

⇒企業からの寄附金の損金算入額に上限あり

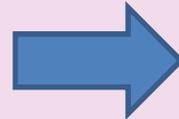
# 研究現場の声を反映した寄附金の獲得～創立百周年記念事業の展開～

《若手研究人材のキャリア育成・未来を共につくる研究の推進を目的とする  
寄附金獲得の強化》



☆研究経費獲得にかかる機動的、少額対応の[募集特定寄附金]公募の開始  
～研究者が自らHP等で働きかけ、新たな寄附者層開拓を目指す～

一般寄附金



民間企業からの申出が大半であり、百周年  
記念事業終了後、再び増加を想定

特定  
寄附  
金

[使途特定寄附金] \* 寄附者が使徒を指定するもの

## [募集特定寄附金]

創立百周年記念事業、  
視覚機能再生研究支援等

\* 理研が使途テーマを定め公募する  
もの

《従来型》数か月～数年の期間、  
獲得目標10百万円以上のもの(主要  
会議承認により公募)

現状では機動的な研  
究費獲得方策が欠如  
少額・短期公募型の  
追加が必要

《新規・追加》短期  
かつ十～百万円規模  
の資金獲得手段とし  
て、理研版「クラウドフ  
ァンディング」システム  
を創設(課題申請承  
認は所属PI)

## 7. 寄附金を取り巻く状況等

### ○企業側の動向

⇒資金提供目的の明確化(特に、製薬企業は某事件以降、この対応を強化。共同研究等目的型へのシフトが顕著)

⇒イメージUPに繋がる企業利益の効果的活用(HPへの寄附金拠出情報の掲載や関連財団法人の(設立)・活用としての公募型の研究助成制度(民間助成金)の実施。

\* 実際、寄附金は見返りを求めない一方的な資金フローであり、主にお付き合いレベルに留まるものが多いと認識

※【まとめ】組織運営資金獲得のためには、資金形態に拘る必要なし  
<提供元の状況も考慮し、出しやすい⇔得やすいものへの対応が効果的>